

放送部について

山城30回 大道 順子

京都三中→山城高校へ・・・という流れの中で、放送部が「いつ創部されたのか？」また「歴史的経過は？」などということについて、私自身まったく知らず、今まで考えたこともなかった。そんな私が多くの先輩方を差し置いて、このような場に登場すること自体おがましいことだと思う。当の本人も「どうして私が？」と疑問を持ちつつ・・・なのですが、これも偶然が引き起こした「ミスマッチ」と思ってお許し頂きたい。

さて、先にものべたように何も知らない私ですが、自分が在籍していた三年間の活動状況について述べてみたいと思う。

まずクラブ内では「アナウンサー・プロデューサー・ミキサー」の三パートに分かれてそれぞれの活動をする。そして、各パートが協力し「山城ニュース」を初め、色々な放送をしたり、当時あった中庭でリクエスト曲を募り「ヤングの広場」というイベントを行ったりしていた。また、朝の授業開始までの時間

にB・G・Mを流していたような記憶もある。もちろん山城祭などの行事でも放送部は不可欠であった。

次ぎに放送の甲子園といわれる「NHK杯全国高校放送コンテスト」への出場について。これは、日頃の活動の集大成ともいえるもので、地方大会があり、そこで上位入賞すれば全国大会へ行くことができる。私の知る所では昭和五十年の夏、三年生の先輩が「アナウンス部門」で全国大会に出場されたように記憶している。そして、昭和五十一年、同コンテスト京都大会において「ラジオ番組製作部門テーマⅡ」一位入賞し、全国大会では十三位、「同テーマ」で努力賞という結果であった。私達にとつては大変良い思い出となった。その後も本校は毎年のように全国大会に出場し、優れた成果を上げ続けている。

最後にもうひとつ。これは私が入学する以前のこと、当時の顧問の先生から聞いた話です。――昭和四十七、四十八年頃のこと。各大学で起きていた学生運動の余波を受け、よく似たことが山城高校内でも起きた。当時「山城紛争」と呼ばれ「教師は地方権力の手先である」という発想から、全共闘の生徒らによる教師の吊るし上げも行われた。そういう状況の中で、学校改革の要求や教師に対する批判などを全校放送する目的のため、その生徒達に詰め寄せられ、放送部も占領されかけたが「放送の公共性、独立性」を死守するために、当時の部員達は断固

として譲らなかったと言うことです。

こんなすばらしいエピソードを持つクラブの一員であったことを私は誇りに思う。そして、放送部の今後ますますの活躍、発展を祈り締めくくりとしたい。



山城 11 回 伊藤信子